

26教福第 76号  
26教義第240号  
平成26年 8月 8日

各市町立学校長 様

長崎県教育委員会教育長  
(公印省略)

平成25年度「プラス1」推進運動取組調査結果について

日ごろから、働きやすい職場環境づくりに御尽力いただき感謝申し上げます。

さて、標記の調査については、御多用のところ御協力いただきありがとうございました。

調査結果を別添のとおり送付しますので、他校の取組を参考に、職員間の情報共有化を図り、働きやすい職場環境づくりに向けた、より実効性のある取組をお願いします。

【担当】

長崎県教育庁福利厚生室 佐藤

電話 095-894-3342

FAX 095-823-3997

Eメール s40070@pref.nagasaki.lg.jp

## 平成25年度「プラス1」推進運動取組調査結果（市町立学校）

	小学校	中学校	合計
回答校数	311	152	463

## 1、平成25年度「プラス1」推進運動の貴校の取組により、【校務負担】は軽減されましたか

		(校数)		(%)	
	項目	小学校	中学校	合計	割合
1	軽減された	35	19	54	86.2%
2	どちらかと言えば軽減された	222	106	328	
3	どちらかと言えば軽減されなかった	34	18	52	13.8%
4	軽減されなかった	7	2	9	
5	校務負担軽減以外の取組である	9	2	11	
6	その他	4	5	9	

「その他」の内容

変わらない。どちらとも言えない。  
 軽減しようとしても新たなことが出てきて、校務の負担軽減には結びつかない。  
 次年度以降に向けての取組だったので、現段階での判断は難しい。  
 省力化できる仕事（業務）は限られ、軽減された実感はない。  
 推進運動そのものの理解が不十分でよくわからない。  
 完全複式となり、職員数が少ない上に仕事量は変わらないので、校務軽減のための努力が追いつかないくらい、一人あたりの校務分掌の量が多かった。

## 2、同じく、【働きやすい職場環境】となりましたか

		(校数)		(%)	
	項目	小学校	中学校	合計	割合
1	働きやすくなった	47	22	69	98.4%
2	どちらかと言えば働きやすくなった	248	123	371	
3	どちらかと言えば働きにくくなった	6	1	7	1.6%
4	働きにくくなった	0	0	0	
5	その他	10	6	16	

「その他」の内容

変わらない。どちらとも言えない。  
 プラス1ですぐにそうなったという確信がない。  
 時間的な負担は軽減されたが、それが働きやすい職場につながるかは疑問が残る。

## 3、同じく、【運動自体】は、新たな校務負担となりましたか

		(校数)		(%)	
	項目	小学校	中学校	合計	割合
1	校務負担とならなかった	76	35	111	81.2%
2	どちらかと言えば校務負担とならなかった	174	86	260	
3	どちらかと言えば校務負担となった	54	25	79	18.8%
4	校務負担となった	2	5	7	
5	その他	5	1	6	

「その他」の内容

変わらない。どちらとも言えない。  
 以前から働きやすい職場づくりに努めていたので、職員の意識は変わらない。

4、各校がどのような取組をしているかについて集計をお送りしました（平成26年2月13日事務ネット）。働きやすい職場環境づくりについて【新たにまた別に取り組んでいること】があれば記入してください。

前回の集計に掲載していたものと同様の項目については、掲載しておりません。（以下同じ）

- ・ P D C Aで終わらずに、次年度の計画まで立案するP D C A Pで終わるようにした。このことで、次年度は簡単な修正をするだけとなった。
- ・ 学校（学級）徴収金処理規程を設け、事務をマニュアル化した。会計報告等においても、専用のシステムファイルを開発した。
- ・ 「トライ1」として、それぞれの職員が超過勤務をしなくて済むようなアイデアを考えることに取り組んだ。
- ・ 通知表システムを独自に作って運用している。学期末処理における担任の負担軽減となった。
- ・ 毎月1日をメンタルチェックの日として、各自チェックを行うようにした。
- ・ 校務分掌の人員配当を、各学年1名配当から分掌によっては学年枠を取り払い2名体制とした。（中学）
- ・ 文化祭を日曜日開催から平日開催に変更した。
- ・ ほっとタイムの設定。（同学年による相互相談の時間を月1回程度設定した）
- ・ 職場の雰囲気をもくするくするために、現職教育の時間で共に学び合ったり、レクリエーションの機会を設定したりした。リーダーを中心にして、職員の和を保つことに心掛けている。
- ・ 「報告・連絡・相談」を徹底することと、管理職員が全職員に毎日声かけを行っている。
- ・ 健康増進のためにストレッチボードを職員室に設置し、運動不足を解消している。

**5、同じく、「学校単位では対応が困難な、校務負担軽減のための取組事項」について回答しました。このことについて、【御意見・御要望等があれば】記入してください。**

校務支援総合システムは十分に使いこなせていないので、市町単位での研修を実施して欲しい。

導入の方法は市町単位で異なるので、市町単位や教育研究会等で研修の場を設けて欲しい。システムを作成した県教育委員会としては、要請があれば県の費用負担で講師を派遣します。【義務教育課】

「行事・出張・休暇」「特別教室利用」など、今まで行っていた方法と Jasmine で行う方法の 2 つで行っているため、二度手間になっている部分がある。

Jasmine には「会議室」から「進路文書」まで 12 の機能があります。管理者としてログインすると、設定画面にて 12 の機能のオンオフができるようになっています。学校の実態に合わせて使用する機能を設定ください。【義務教育課】

「行事・出席」などは、学校日誌・保健日誌・出席簿が Jasmine の様式に合わせて IT 化されないと使いづらい。

公簿の様式は各市町の管理規則で決定されます。各市町の担当者へ御相談ください。Jasmine の学校日誌・保健日誌・出席簿を使用しない場合は の手順により機能をオフすることができます。【義務教育課】

26 年度は、4 年に 1 回の教科書採択の年となる。各教科のカリキュラムづくりを依然として狭い地域で分担して取り組んでいるが、同じ教科書を使うブロックで分担したら負担軽減となるはず。

教育課程の編成は、校長の責任の下に学校で取り組むべきものですから、県教委が作業の段取りを調整することはありません。各学校の参考となる資料を作成するに当たり、他地区や他校との連携や協力を図ることは、校務軽減につながりますので、校長、市町教育委員会と相談の上、円滑にすすめてください。【義務教育課】

調査など「該当者なしの場合は提出不要」と簡略化して欲しい。

調査においては、該当がない旨の確認が必要な場合が多くあると考えますが、負担軽減となるような調査方法について、各課室及び市町教育委員会へ改めて検討を依頼します。【福利厚生室】

6、翌年度以降、「プラス1」推進運動がさらに働きやすい職場環境づくりにつながるように、御意見・御要望等があれば記入してください。

(1) 「働きがい」や「充実感」につながる取組姿勢について

- ・ 職員のボトムアップによる改善を目指した。子どもたちに還元できることであれば、「働きがい」につながると考える。物理的な時間の問題はどうしてもあるので、プラス1においては1つ事業を減らす考えを進めていけば負担感も減ると考える。
- ・ 「働きやすい職場環境づくり」とともに、「働きがいのある職場づくり」を目指して、教職員の知恵と工夫を活かした「教育の仕事」の可能性を追求していきたい。
- ・ 充実感、達成感が味わえるような管理職からの言葉かけを心がけていきたい。
- ・ 小規模校のため、職員の役職兼務は免れなく、校務の負担面を軽減するにも限りがある。管理職が一枚岩となり、サポートできる雰囲気作りを職員にも与え、お互いに信頼関係を築きながら一つ一つ取り組んでいくことこそ、働きやすく働きがいのある職場作りの根幹になるものだと思っている。
- ・ 校務負担が減れば働きやすくなるのではなく、やりがいにつながる職場作りに焦点化して運動が広がればと思う。

(2) その他、運動推進のための取組姿勢等について

- ・ これまでの取組を見直し、改善策を検討する良いきっかけとなった。来年度以降も「働きやすい職場づくり」につながる取組を全職員で考えたい。
- ・ 近年、様々な問題を抱えている児童が増加の一途をたどっている。その中で、多くの教師が問題を抱えながら日々努力しているのが現場の悩み。今後も支援体制を強化し、子どもと向き合う時間を確保することが、学校教育の最重要課題であると感じている。「プラス1」推進運動を本気になって意識し、思い切って職場改善を図っていくよう努力していく。
- ・ 小規模校であるが、校務分掌をチームで分担することで個人にかかる負担を軽減できると考えている。今年度は十分には機能しなかったが、次年度以降は取り組み方の要領もつかめ、システムとして機能し効果が現れてくるものと期待している。
- ・ 「プラス1」推進運動は、県下一斉に取り組むことで職員に周知したり、協力をお願いする際の意識の高揚に有効と思う。企業や他校の様々なアイデアを共有できれば有り難い。

- ・ 職員の意識改革には、時間がかかると思うが、地道に取り組んでいくことが今後も必要である。
- ・ 所属職員の意見を十分に反映させた取組の推進。
- ・ あれもこれもではなく、学校の実態に応じた年間取組を1つ設定し、職員間で共通意識を持たせることが大切と考える。
- ・ 目標と達成のための取組について年間計画を全職員で共通理解し、年度末に負担軽減につながっていることを確認し合う。
- ・ 子どもに向き合う時間の確保につながるような取組にしたい。
- ・ 新しい取組をしていくのもいいが、以前からしているものをいかにしていくかで状況は変わる。

### (3) 要望等及び回答

実施報告の簡素化。インターネットによる報告・回答の方式を継続してもらいたい。

今後もインターネットを活用した報告方法を継続します。 【福利厚生室】

「改善できるものは改善していく」という回答が、どう実現されたのか通知されれば、現場の運動意識も高まる。

今後も「プラス1」推進運動の取組としてお知らせします。 【福利厚生室】

「プラス1」推進運動の目的・趣旨を県・市のPTAにも周知してもらいたい。

長崎県PTA連合会に対し、「プラス1」推進運動の趣旨等について説明します。 【福利厚生室】

各校の取組については、一つでも多く具体的な方策を知りたいので、全て知らせていただきたい。

各学校からいただいた回答には同様の取組が多数含まれています。類型化しながら、できるだけ多くの取組を紹介していきますので、御理解をお願いします。 【福利厚生室】

内容をもっと学校独自で取り組めるものにして欲しい。

「プラス1」推進運動の実施にあたっては、取組事例の紹介はしていますが、各学校における項目の設定を制限しているものではありません。各学校の実情に応じて、職員間の協議等により項目を設定し取り組んでください。

【福利厚生室】

## 7、その他、「プラス1」推進運動に御意見・御要望等があれば記入してください。

日頃の教職員との意見交換の大切さを、より一層意識して実践している。

退校時間を早くするという取組により、学校で仕事ができないという不満も一部ある。

「プラス1」推進運動を、職員に対して十分に浸透させることができなかった。

記入する職員にとっては、多忙な時期の記入・提出になり負担増なので、現場に任せて欲しい。

結果調査アンケートは、できれば2月末までに欲しい。

2月末までの回答となるよう、実施時期を早め負担軽減に努めます。

【福利厚生室】

本調査は、効果的な取組があった学校のみ回答するということはできないか。

各学校の取組状況については、他校の参考となるよう広く紹介していきたいと考えています。できるだけ校務負担とならないよう努めますので、御協力をお願いします。

【福利厚生室】

校務負担軽減は、時代の流れからも学校独自で考えているので、このような新たな取組の必要を感じない。

校務負担軽減については、学校で常に模索している。取組は、学校に任せて欲しい。

各学校におかれては、これまでも校務負担軽減に向け取り組まれてきていますが、この「プラス1」推進運動は、それをより実効性のあるものにしてという取組です。この取組により「校務負担の軽減」、「働きやすい職場環境づくり」に効果も表れていますので、御理解ください。

【福利厚生室】